



賣油郎

^ 13  
3243  
1





平松町  
惣  
本  
訪  
多

密月  
英  
屋  
之  
子



出  
る  
油  
賣

ぬ  
け  
る  
の  
こ

見  
る  
中  
後

寄  
成  
月











○ 賣油即惣目録

□ 一之巻	余戸の孫又催婦女 <small>よど ひまや やとらねめ</small>	再縁のしと瓜は <small>さいえん のしと 瓜は</small>
□ 二之巻	山崎の街に独住 <small>やまざき のまちに ひひとりまゝ</small>	義父の家 <small>ぎふの いへ</small>
□ 三之巻	華洛の方よ油賣男 <small>わかくし のうへに あぶらうりおとこ</small>	惠善のやと瓜は <small>めぐみの やと 瓜は</small>
□ 四之巻	西島の廓よ出標の妓 <small>さいまの くりやに だせうの ぎ</small>	客人の伴瓜 <small>きやく人の ばん 瓜</small>
□ 五之巻	狐川の道に塾書役 <small>きつかわの ちみちに じゆくしやく</small>	花魁の雛瓜 <small>はなけい のひな 瓜</small>

一 月 九 日 刊 行

賣油即卷之一



の一回と云ふししれもの

山背國邊のさたりよ。油を余に謝門といふ。油賣人あり。家  
 富小いあらねども。又化又謙だる分限もあらざ。曾祖父  
 の代より。衛宅土庫に譲まうけ。生潤は仕合よく。油賣  
 する。尚麻を易くふらうらるる。宿縁よや。其  
 の齡へ。知命よ余るまで。一又あらざるのえ。神よ  
 佛よ誓へども。又其應護をえども。瓜は  
 と。是東おくかひいて。叶と。棲本よ花と。瓜は

浪速

芝屋芝叟遺話



樂に又んと。遠方近方の知音を計して。養ふ人なきに  
 男を求めたり。屬者程きうらぬ。一口といふふ。道  
 徳のすゑある。聖さたり。法蓮の庵とて。遠方の  
 村里より。老とぬく若れとふ。帰依の男女詣りし。  
 余左右侍門すて。一度ハ佛縁と結び。法の互とも。徳  
 る。曾ハ過徑の交と。徳もまたのまんものとして。日毎  
 二条。隔ましく。二説。粵も。同回ハ橋の。卿士南方十字を。岡  
 形。者ハ。山林田畠多。家大又富はま。ども。ふま。し。宗  
 嗣ぬり。し。ハ。晩妻の。は。また。る。男と。養ひ。十太郎と。交  
 名。と。世。て。恙。し。と。く。人。程。ハ。二。男。と。役。け。て。ス。し。ヤ。歎。び。

表びと重ね。初名十次郎と。吸ひ。月夜ふも。換て。見  
 の成長と。樂し。し。が。十字を。岡。一。時。凡。の。か。地。と。う。り。て  
 う。熱身。の。痛。く。強。く。熱。身。の。性。来。繁。り。れ。ば。渾。家。ハ。さ。ら  
 形。兩。個。の。男。も。病。床。の。枕。方。と。去。や。ら。ず。く。者。病。け  
 ま。ども。定。業。ハ。の。が。ま。が。と。く。や。あ。り。けん。ハ。つ。り。り。と。ま。り  
 了。々。當。下。い。ま。と。鬼。十。太。郎。ハ。拾。八。茶。牙。十。次。郎。ハ。拾。五。茶  
 の。以。り。と。鬼。十。太。郎。ハ。原。来。篤。美。誠。公。形。と。ま。り  
 義。父。ハ。喪。の。中。に。塾。夫。の。り。い。と。ら。せ。ば。割。華。の。替。

なる。杜鵑。い。い。し。れ。我。身。ま。ま。と。も。嫡。嗣。と。定。ま。り。し。

かの。ら。ず。し。も。吾。儕。ハ。家。名。の。相。續。と。命。ぜ。ら。る。べ

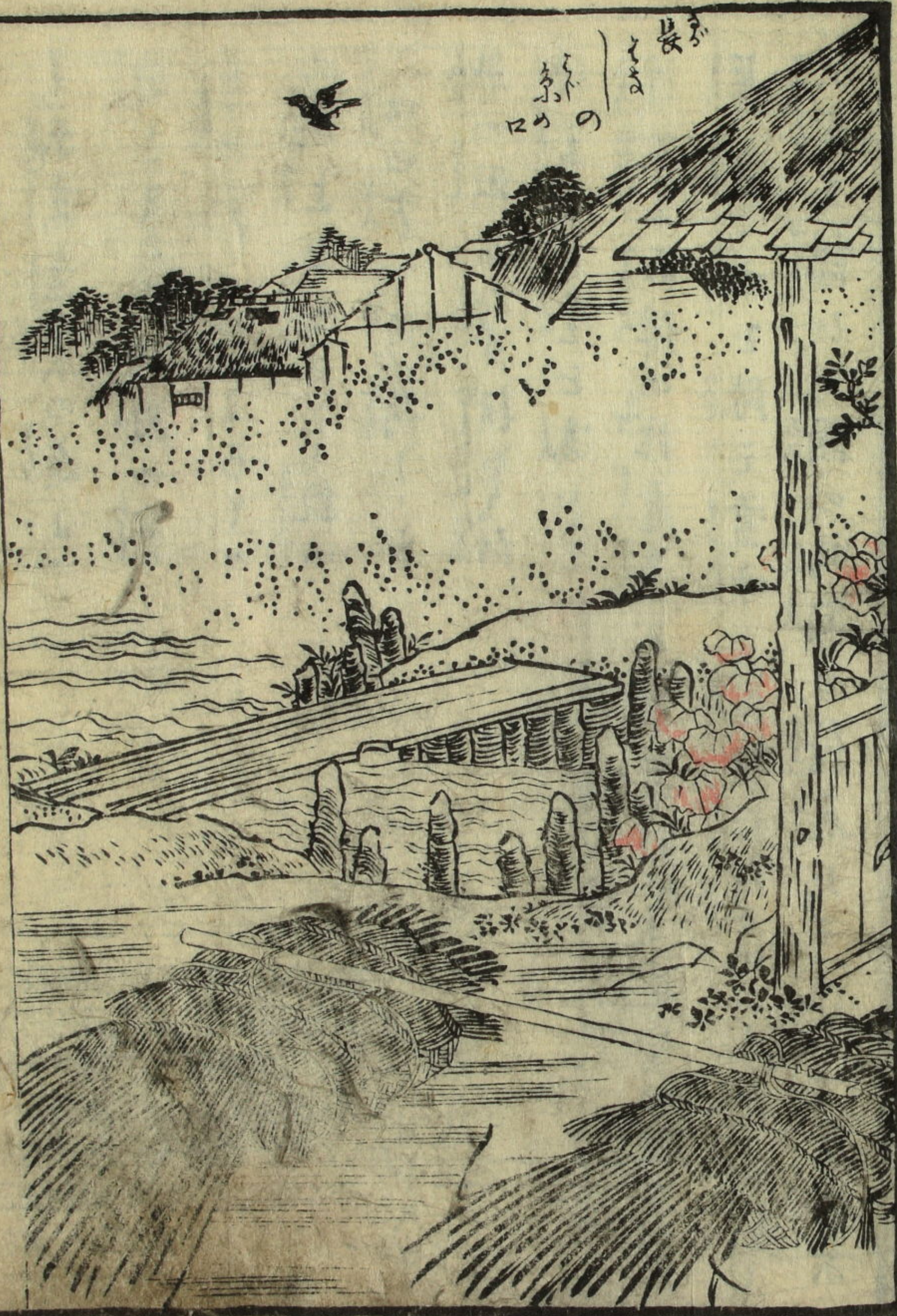


たのむハ身十次弟の公儀又廣くと含めて。洞いと醸せんと計ざり。亦身は保かあて。富成帛又満たる。南方の家又と懸どし。旅よおしとみし。義父の霊の思ふ人。ハハハ。人の親の公ハ。本成おひに。迷たまひん。事も空おそり。角おも身。世成譲るふ如し。我當家よ。功成名遂し。追存理七し。南方氏の。十太弟又相續いたとすべし。親族の衆。

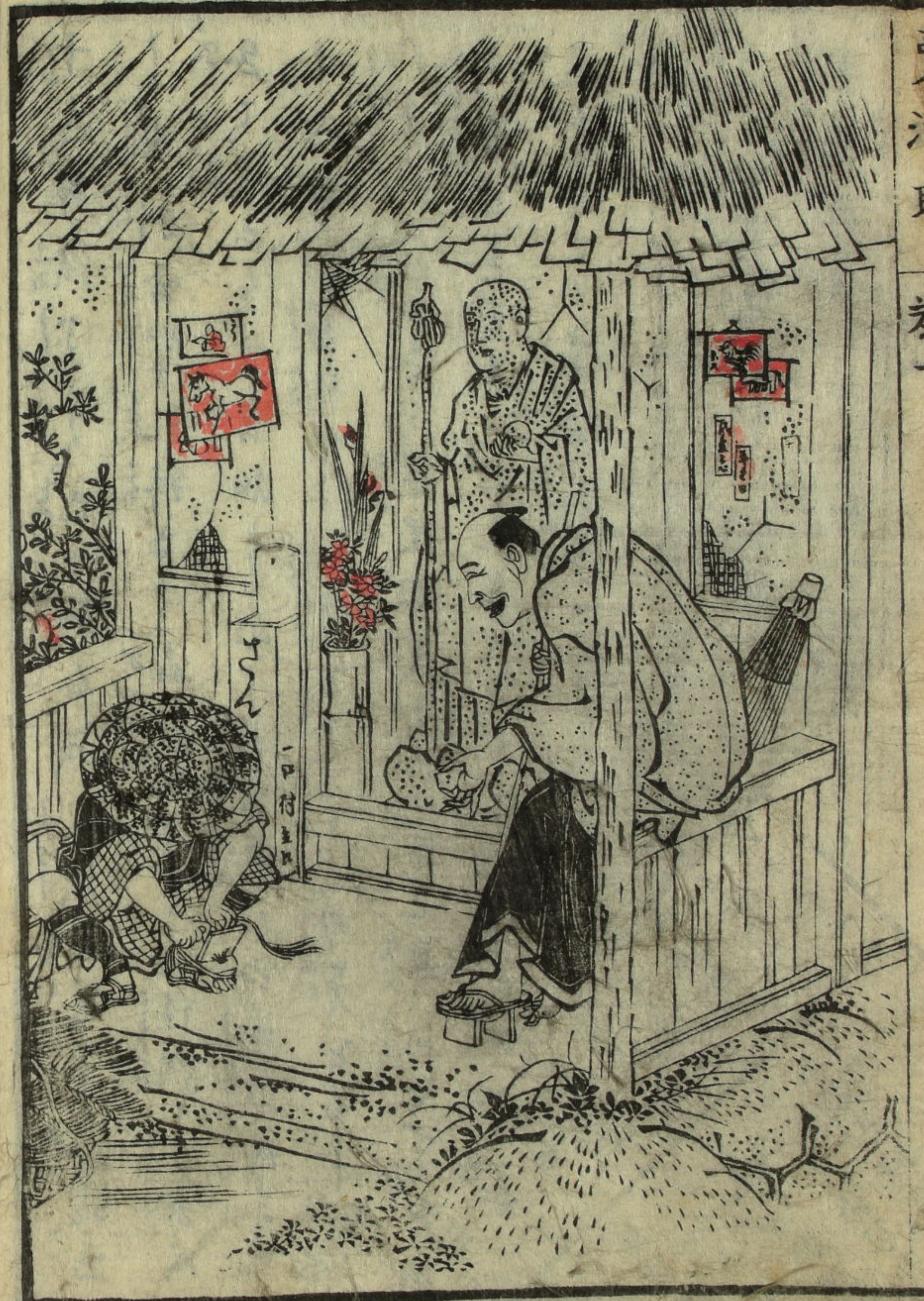
十太弟。少刺合掌礼拜。名残おしくも。任列一家。出て。人志ます。各知も。南方氏。十太弟。書。一書と。母。門大ひ。遠里那里。行。おれせ。ゆ。名。南。踏。申。古。通。の。鳥。鬼。も。後。密。ハ。幡。街。通。揚。井。と。知。知。音。あ。家。の。食。客。

賣由





長  
の  
の





至。系本産業の道は是はたる事と一もあらさまむ。  
近きところ、物敷の芦、あつ江のまの菰まど、菊とて。  
その日、くの糧はあてたり。一日、いつものごとく、芦と菊は、  
の川ととを、かどし。狐川と越て、美津の市、牧とて。  
一口の方へり、折しも。俄くは、東風とげし、かきま。  
豚の形、あたる。柱を、只とふ、お日ひ。一通りの雨、降出し、  
独走もて、是と凌ぎて、行往よ。雨は、いふ、降ま、さうなるが。  
逢迎は、石佛の地、養も、安置おせ。是堂の有、くれぞ。  
早天よ、水と跡を。雪中よ、炭と、はたるの、おひし。て、  
は堂よ、憩ひて。雨の、時向と、待居たる。境、形、能、坊、余

た、高門の、一口の、道場より、下向し。は、是堂と、約さ  
し。が、本根、も、脈と、りん。右の、履の、緒、ふつと、切て。匣箱、  
飛、傘、お、ぬ、ぐ。小、孫、つ、いて、う、つ、伏、く。り。十、太、舟、あ、り、  
と、ま、り、り。み、と、う、り、て、抱、起し。裾の、泥と、拭、い、つ。い、と、あ  
や、う、く、こ、と。い、づ、こ、死、痛、た、ま、る。み、ん、ら、う、の、た、ま、い、の、  
傍、藁、菜、も。那、裡、よ、め、を、バ、履、の、基、ま、い、ら、せ、ん、う、ら。倚  
ま、い、て、お、い、せ、ん、う、り、は、と。彼、是、堂、の、裏、よ、傍、ひ、履、引、  
い、た、く、そ、し、て。御、さ、し、入、備、し、も、今、日、ハ、さ、し、う、る。難、ま、  
存、り、し、ま、ら、ず、も。大、相、公、の、所、み、と、は、せ、し、  
五



かへとも罪得べく。往昔の張良の教ともとめんたを不  
莫石公の背がさげしとて承はも。愚元ハ石も取  
野まると。おまで勞倦介をさる。後生おるよ  
奇おあ。嫁もまらどろけ容辨。こまぞまの後  
生死ひして。宝刹道場は詣どる。お子よ。まらどろ  
後また善根さるべし。過活よ竹とを。まらどろけ  
知らぬども。ととを極の備へて。おま方へもまらどろ  
後のもろも。他坊余をたつと尋ねらとまらどろ  
人も稀あらんといと誠やと語る。ととや橋梓れ  
始とハ後よとありあ。ととぬ。

○二回 いまーじなれたし

當下十太爺つ。いつらあも小止りれども。早ク書つ  
日ひよりけり。バ。及の程もたどし。かろべし。老人の  
家。居まて送りまいらせんといと怒おる。公根が余  
九清門家んど。る。る。后ハ境爺ごとも。寒暑ととへ  
らひまどせし。うらに。十太爺南方氏と。かろべし  
有枝有葉と。かろ。その篤美。あ。後生と。お流浪と  
せん事。お情。原。末。骨血。い。や。う。ら。ね。が。金。た。あ。か  
義。ま。と。せん。と。あり。い。を。お。扱。よ。し。商。量。して。一。冊。け。ま。し  
い。ひ。出。し。ふ。十。を。あ。り。し。日。く。の。擧。之。一。々。を。バ。お。れ。と。ぬ。

賣油郎 卷一



引文名一して余を請とす。まゆやう小家業は、  
去りも兩親は仕えて孝行す。余左衛門四偶も、  
肉刃のふれどくあはきとたり。美や精頼べは、  
たてろといへるを言のでし。け家二十某の比より致はし  
て。今や傳介として番頭出に不てまうつおる者あり。其性  
乖巧とくして。主人の温順なるまうに。予は金限と  
かきめ。口先は偽言とわごり。合は飽さ身小強。伏水  
おる中書。鴻おるいひ。墨涿。撞本街の綾女は擲うつ。  
女刺者よりぞ。余を請と義みの商量とす。公意は  
怒ると會ふ。我切義より回切ましかるんは、探るに

會べしと。おりのまのあらしし。ふといぬくて。余を請は  
過短とぬしたると。眼と。何うなかまふあやまら  
とせんと。巧もろぞうとてた。げや光陰ハ。成のごとく。  
その年もくきて。斬ら。春成遠へ。時。睦月の余を  
請は。過短とぬして。うら。ま。とく。死。まも。業。ゆ。く。お。ど。眼  
ふ。よろこびと。重。ね。ろ。ろ。が。満。ま。バ。か。く。る。世。の。ぬ。ら。ひ。し。こ。  
余左衛門が。陣家。おるもの。不。平。風。の。心。地。こ。も。あ。ふ。し。  
如。月。の。半。佛。入。滅。の。日。は。日。じ。う。して。とも。小。假。樂。の。雲。の  
か。く。ま。ぬ。余。を。請。つ。ん。ど。ろ。余。を。請。が。ま。げ。と。入。と。ぬ。ら。ぬ  
ごも。か。へ。る。な。と。通。ふ。う。さ。と。時。が。や。し。野。田。の。送。り



とぬし。のりれ事まで。ぬんごろよ。宮くぐり。そまらう後  
 ハ。合家小女のうど。のあらどま。蒸飯使女し。服と  
 て。おり。万の事なふくま。不自由がらふして。せうた  
 僱婦おろともたのこて。とど。波澄とさせんと。こし人  
 ひとり。伏水の納屋町。迎のまろ。べま。暖縁といへ  
 婦女が。憑て。おし。く。け。え。ん。ま。観。ハ。ま。こ。し。あ。ら。ん。れ。と  
 を。ど。も。風俗い。や。し。う。ら。ず。年。ハ。三。十。一。二。と。又。え。と。面。む  
 向。く。ど。こ。や。ら。不。覽。系。こ。ぼ。ま。て。聖。教。ま。ま。女。の。な。り。り。り。  
 いう。ぬ。者。ぞ。と。と。ぐ。り。す。ふ。茶。良。の。本。け。の。花。街。も。え。  
 所。とい。ひ。い。遊。君。の。身。の。切。と。へ。伏。水。よ。後。の。者。と。い。へ。る

者。と。終。文。の。約。か。よ。し。烟。丸。の。年。も。あ。ま。し。う。の。廟。の  
 名。と。暖。縁。と。あ。ら。た。り。て。涼。茶。の。か。と。り。不。任。る。が。相  
 る。夕。ま。の。け。ら。り。の。代。の。と。ば。し。こ。ふ。女。夫。の。中。も。あ。と。し  
 から。で。い。つ。し。う。休。書。ふ。え。よ。し。と。り。て。し。う。暖。縁。女。の  
 彼。よ。是。よ。と。沈。吟。五。本。お。け。ま。が。雇。婦。と。あ。り。て。伏  
 家の。家。こ。と。こ。た。ら。ひ。ら。ら。原。末。お。の。が。名。お。ふ。は。と。が  
 お。く。と。か。く。お。人。の。う。へ。の。よ。れ。と。も。あ。し。と。ま。ふ。い。ひ。ま。す。ゆ  
 へ。各。家。よ。一。旬。と。い。居。ざ。り。たり。あ。る。ふ。頃。日。は。清。涼。な。雇  
 ハ。ま。末。て。合家。も。疎。ま。ま。ず。近。隣。も。ま。の。ま。り。お。る。老  
 こ。そ。や。と。ら。く。も。美。ハ。年。月。の。艱。難。骨。小。ま。ま。て。ご。ら。ら





長次郎



十二

南方十字

男十二

油

巻

局



心とせりて勤多くと云えしより一時未だ余左坊坊長方の振舞は行て大酒より家より回をば精癖のよ枕にふりよふとぬもて来つるかの湯熾と憑て腰回をうとせくるが頸上よ雪はけもまども心の荒は菱うせす酒具のあやうごまどむよ暖帳もいるおのころをまた文をまば強くもいよままでそのまふ未だのふあとかひたる詰旦余左坊の酒をとりて後悔はしよしおと事なまらうし我々の老を恥てのらふつふその念をまがゆんし我公といましりまども暖帳の中くよ華表こしたる老妓の果なまばどのまに

の許さず。深よとむ出の我々。王人の国より老まハ余ま謝なをり合家を恥て。まよくとおいへどもさらよ承引ず。おとよりお毎にまいおバ。阿漕が浦よひく細のたしへよれず。合家の者もかほけど。余ま謝ハたごおとずはよてさぬ侍助ハおのを過経とわらざらめり眼よ。暖帳よ對こハ佞言なつといへども主人ふ向ひてハおし。この目と。灰いとずしてあうる。おと物換屋うつらんまどぐい。いつともる人間も識て。そまも恥す。まの地戸籍とあらとめりへて。暖帳ハけ家の継室と



おり々をば。余も病も母のどくくやましい。合家の者も。  
 至人のどく思ふ中。余九折門ハ。次第は老るづか  
 き。眼疾とけらひて。ほめ又内瘡の症とまをば。家  
 事ハまゝ。婦人まうせとまうて。他坊の寛お置と  
 ぞしびりうらうら。とべて女の眞正より。おのどく希  
 義とまをば。梅のどく酸味と換ざる。いよまうと希  
 形ものより。移り易く。性多し。東江余左衛門ハ  
 老の浪もく。皺皮おとことうたう。一。取眼ひうら  
 矢へば。内房のかわらひうとくしく。おうて。暖湯ハ  
 たのしまず。けは日ハ余も病が。養やう形もよんをよ

せて。透間あらば。身と任せんと。おまといく。老教ハ  
 ふ不しくまをば。天性もへ美余も病まをば。どくり  
 よからぬ。忠一といひひやうけず。おあはとまれ。かま  
 今もと母と唱る。暖湯まをば。竹角又つけてうやまし  
 たつと。まをば。婦人ハおつと。うらうら。おまをば。おま  
 又かひひこうと。いろく。病とよせまう。おまハ余も病  
 しそのまをば。暖湯。けはく。志ま。おま。おま。おま。おま  
 ざろて。いよして。おま。おま。おま。おま。おま。おま。おま。おま  
 る事と。余も病。おま。おま。おま。おま。おま。おま。おま。おま  
 うつ。おま。暖湯。おま。おま。おま。おま。おま。おま。おま。おま



いとくかめくうも。今いふもひのやる。漸なまきふら  
流けよいとんもの。ある。叔老まのうま。入ら  
肴とどり。国とぬけ出て。かとり。おろ。行燈の灯と吹  
けし。まのび。野して。樓の傍よと登る。常し。いころ  
おと。後宮も。急の掃とよま。び。しと音。ふ。拍  
と。ろと。控縁て。合。家。試り。か。ひ。は。年して。違ひ  
あ。ぐ。や。う。し。小。余。を。喘。ぎ。控。方。よ。ま。び。し。る。余。を。樹。ハ。  
と。ま。う。りの。物。ま。か。つ。う。し。と。む。く。と。犯。常。ひ。ま。し。ら  
て。ま。う。し。と。て。竹。し。の。ぬ。ら。ど。と。登。じ。ろ。と。と。め。て。妻。ハ  
お。り。と。低。め。て。り。ふ。身。ハ。圍。し。も。あ。る。と。籃。の。梅。ま。の。る。

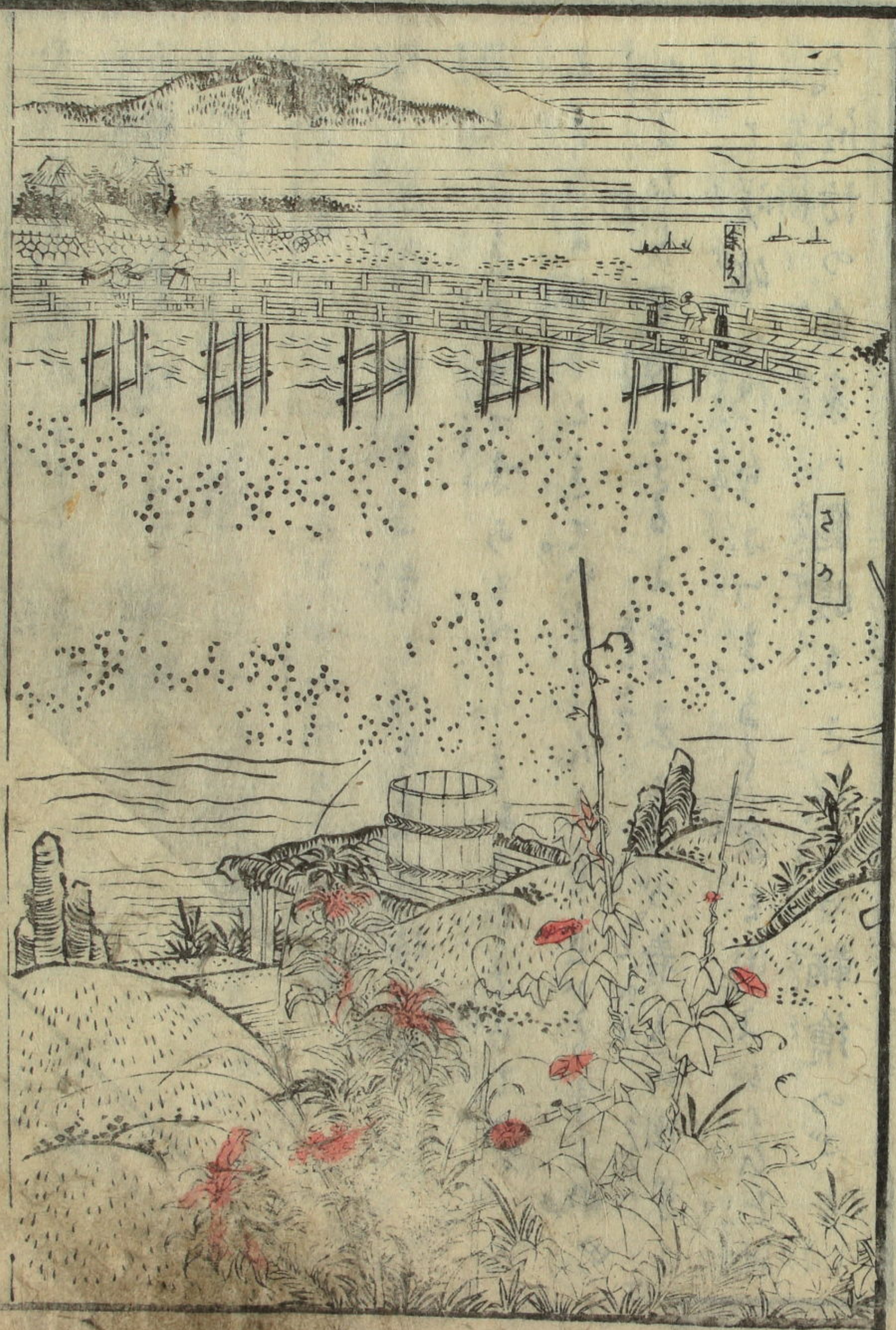
小石やうよ。い。や。ら。し。く。し。と。香。と。た。し。も。我。身。の。さ。が  
ら。か。り。え。ぬ。邪。念。と。ハ。悟。ま。ど。も。更。又。か。つ。ら。ぬ。体。に。も  
て。お。し。竹。車。ハ。記。す。ど。や。お。後。の。光。来。ま。つ。う。ハ  
し。と。い。つ。が。暖。暖。ハ。う。ち。後。て。お。も。し。く。お。身。ハ。か。つ。よ  
れ。人。ま。ろ。ど。や。お。事。ま。り。や。う。ま。ろ。か。よ。ま。づ。と。て。物  
ふ。よ。そ。へ。事。ふ。よ。せ。て。幾。度。う。情。と。傳。え。ぬ。ら。よ。身  
光。か。あ。ま。ど。も。流。水。ま。る。く。や。し。お。人。と。と。ま。ど。い。と。も  
尚。お。ま。の。願。と。ま。や。ら。ず。急。暮。の。後。氷。條。と。な。う。て。ハ  
つ。ら。お。ま。ん。お。ふ。い。今。有。と。ま。あ。う。と。ま。ふ。い。ひ。く。と  
か。ん。と。女。の。身。の。あ。る。ま。ど。き。月。類。と。ぬ。び。て。ま。の。び



来まろる。何事このハとハ曲もなると。歩眼くく  
らどくうらちも。余も湯ハ義父の耳も干入ん。合家  
の者の眼や見えんと。身も熱鉄の汗とかまき  
湯水の騰と冷してなと。孫と男とぞ。備しも思ひ  
よらざる。おぼしむ。けなよと。義許あり。ぐ  
ひやくも。よくおとおぼしめたまはるべし。義父の  
賢聖のし。此方な。我たりの母ぬら。ぞや。志て  
うん。及も肯とたる。畜生界のこぞ。くまぬるべし。や。  
義父の眼。見え。な。う。た。が。ひ。と。あ。い。ら。ん。事。思。べ。し。  
い。や。と。く。く。ぬ。せ。た。ま。く。と。何。と。ぞ。し。て。程。と。ぬ。

けま。ば。と。し。もの。婦。も。か。た。ハ。さ。し。ハ。面。伏。も。思。ひ  
ら。う。お。し。も。道。と。迎。の。道。場。も。晨。勃。の。大。靴。ぬ。り  
ぬ。り。な。ま。ば。合。家。の。者。起。出。ん。と。か。あ。は。し。暖。暖。ハ。そ  
の。ま。し。樓。と。お。し。な。ら。か。ま。と。も。瘡。る。も。の。あ。ま。い。り。と。ま  
小。拾。い。もの。あ。る。が。世。の。中。の。ま。系。し。て。番。匠。の。傳。介  
ハ。余。も。周。と。あ。ら。う。も。憎。む。とい。へ。ども。京。東。貞。正。ま。し。  
て。竹。の。矢。也。も。ぬ。く。誇。え。り。と。と。孫。も。あ。し。ど。ま。ば。ま  
ま。し。ま。と。ぬ。や。ま。し。る。が。け。傳。介。その。性。温。念。涼  
して。暖。源。女。が。け。家。も。来。ま。る。れ。し。り。代。が。あ。ら。し。け  
ぬ。け。た。ら。し。眼。いつ。け。ども。観。の。あ。ら。ハ。ぬ。る。が。ぬ。る。と。ま。す。





傳助と  
器  
通  
局



やめまらん。そのづしふるせしうら。主人余は門の  
不務とるりぬ。もてて流欲なるものハあけくまも  
くまたる。買女とゆんとのそんは懸想して思いと  
遠ざ偶とよでもるき女のたれよ。そ身と失ふもの  
形。東尼の次第よ老くづとま。暖味の日よ停して  
壯んふま。唾口味あるべしとかりひそめて。頃日ハ  
あまりよんうごさていどまんともまども。まくおん  
心よたらど。但せざるよ妻忌するが。春色の因果よ  
して。暖味ハ傳介ふつまなく。余を割よかりいと地  
る。他坊の合家ハ懸望まるとに。三ツ鞆繪のごとし

余を割ハ。お暖味暖味よくと。教訓せしことゆへも  
とや嗜まつらんとおりのの。海崎ハなともいや坊に。  
本よあてハかこち。人よおまの眼もねどとらこと  
くま。自家義父の心づきたまひ。年のどく形りと。  
千万の思とそい。おりいとうへ。我宿を避ける  
おハ志うドと。是よりして出高いととド。店のお賣  
若まくりハ。傳介と管家よて事とま。そ身ハ  
小出て。潤く愛く成まをべしと。義父よ若て。はねよ  
他擔と挑ハ。あしたよハ星ハいたれて出り申入る  
おハ月夜背てかろく。去るもつらそ小坊るハ。



暮のふらハせし。暖味ハとかく。余去周と  
びくんと公ぼくしのおりいハ人志らぬ火の燃つら  
と。ふくびあし森るとし。世満の時と計て樓の  
圍へ志のびり。余去周ハ眼足ておどろそちつくに  
遠せども。は流婦。ふよちるそむられば。大いに  
果けよハ。言として彼とたらし。は場とまぬま  
んと公と定め。とあらが。是氷ふし。はふもぬるらに  
ふたがひ。べし。さうし。恩義ある父の眼とぬとむこ  
とのり。ごし。がとろを。た。今旨のくも。ち。ち。たま  
し。と。い。ひ。づ。れば。暖味。承。引。ず。ま。ま。中。一。お。の。ま。

取らば。おりのいそら。とる。ち。ら。余。の。び。く。し。を。し。し。取。ら。ば。  
お。の。い。く。ら。ハ。湯。の。先。の。用。た。ま。と。玉。椿。の。八。千。代。は  
か。けて。文。よ。く。ま。ま。と。厚。皮。よ。も。塩。登。ご。ゆ。く。と  
た。る。ま。か。こ。ら。事。ふ。ま。と。ハ。た。ま。教。よ。て。い。と。し。つ。つ。は  
つ。て。ち。ろ。こ。せ。た。ま。へ。と。つ。ふ。ふ。暖。味。お。か。ふ。や。ち。余。去。周。  
よ。ハ。男。ま。ま。後。の。事。と。固。く。し。ふ。ま。し。り。て。お。く。億。す  
ろ。と。お。ば。や。い。う。ん。し。て。お。り。も。精。ど。に。か。ハ。さ。バ。や。ハ。ら  
其。し。ふ。の。づ。と。べ。と。う。ハ。と。お。り。い。と。ハ。め。て。西。の。ハ。サ。  
た。り。体。も。と。お。し。は。と。い。ら。ら。ま。し。今。宵。一。お。と。い  
ぞ。う。と。お。り。い。と。ま。ま。づ。し。と。ら。ば。夫。唯。ま。後。ら。か。



日ひのひのひのひと。唯ただとせたまへと。かかいらりて。よりより流ながれ  
ややととままばば待まちたまへ。用もち足たりたらんたらんと。ややららくくに  
ああごごいいととおおくくせせ。余あままま坊ぼうハハ幸さいどどてて。樓ろう下げののががままおおそそみ  
脊せ戸とはは出でるるにに。ままごごああふふかかけけままどど。そのそのまままま車くるまも  
草くさ躑ぢりりももととききてて。擔かみみたたままいいつつものものををくく出ですす  
々々。番ばん下げのの傳でんふふハハ。前まへ日ひ伏ふ水みづのの岡おか屋やもも用もちああららし  
年とし後ご漢かんとと出でてて。かかつつふふハハ。例れいのの墨すみ深ふかはは多おほくく。酒さけ  
小こふふけけりりてて。漸やううのの列れつ本ほんにに家いえもも戻もどりり。かかううららをを  
首くび尾びああららくく。いいそそううもも床とこととららんんととららんん。こころろ。渡わたりり  
女むすめががここしし足あしししてて。樓ろうへへ行いききととええししららああハハ余あままま浦うらとと。

みみそそうう幸さい成なりまましし。流ながるるよよとと。かかづづとと。かかののままふふははまま  
おおくくららししるるもも。ゆゆるる事ことのの有あららままいいんんががししるる  
けけ一いつ條じょうととももてて。余あままま傳でん成なり退ひくく。日ひこころろけけうう  
らららら。急いそ路ぢのの仇あだ。一いつ時ときよよててららささババ。我わが幸さいおおままババもも  
ううまま言ことわわたたががととんんとと。息いきととけけりりててううけけひひ居いるる。渡わたりりにに  
かかくくももああららままししずず。今いまややままるるううとと。ままててどどももししまま  
たたららささままババ。ああハハああごごいいららままししるる。初はつててかかつつまま。牙はをを  
齧かんでんでううちち抜ひくく。余あままま傳でんととららへへかかりりんんととまま。眼まなこももとと。  
樓ろうととおおままてて。たたづづぬぬままもも。其その姿すがたのの見みええととままババ。いいままらら  
んんののややるるくく。ああくく脊せ戸とににたたづづままてて。ととややせせんんかかくくややとと



いとしとねぐる。傳介は始終とくと見し。いふ  
言ひも。不義のあらざる事。我知るより。たふまらに  
なむめど。りして。脊戸にはうひ出。後さま。抱付  
暖。師いふ。どろき。ふり。不と。さ。て。我と。見ま。ば。目。取。い。そ  
ら。へる。傳介。お。ま。ば。度。く。の。ら。う。せ。さ。ら。し。め。に  
声。ま。ん。と。ま。ら。り。し。ら。ば。傳介。あ。い。て。我。か。を。合。せ。お  
く。ら。成。暖。隊。ハ。見。し。ふ。と。不。便。の。公。お。ら。り。さ。て。し。も  
を。あ。い。て。お。り。い。と。を。し。ら。る。余。き。清。の。は。ま。ま。さ。ふ。い。引  
か。へ。て。傳介。が。公。ど。し。の。ま。は。ら。し。と。よ。と。た。り。ま。ら。に  
公。と。ま。て。背。戸。の。ま。ま。の。下。加。に。手。枕。の。體。を。か。た

し。と。通。ぬ。ら。ぬ。妹。脊。の。山。よ。と。け。入。る。悪。怒。を。う。ま  
て。ま。

貴由郎卷一

言 卯



